1　栽培面積と生産量

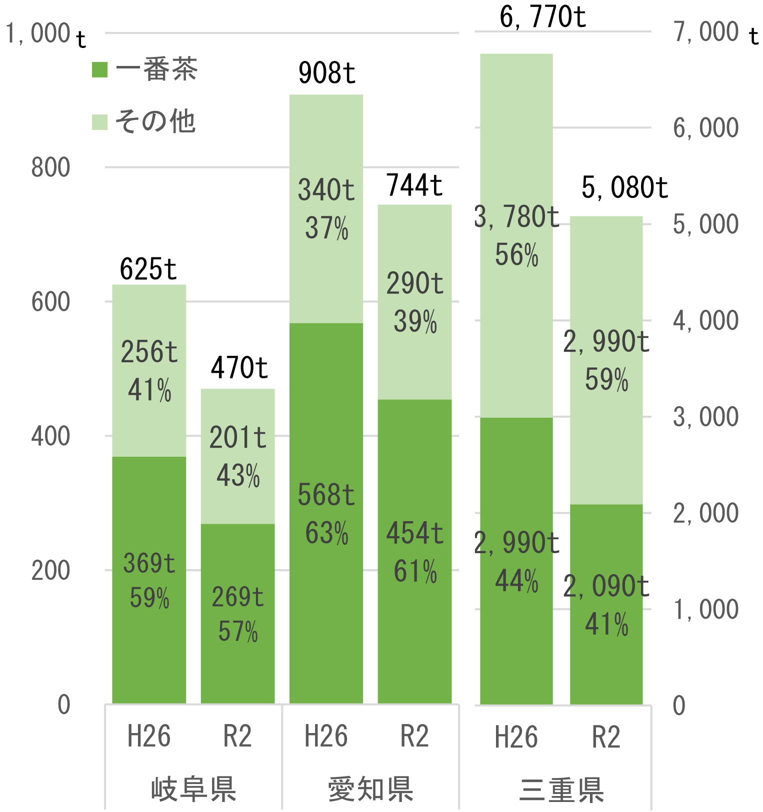
○　東海地域における茶の栽培面積は、全国の約１割。管内では三重県が最大の産地で、静岡県、鹿児島県に次ぐ全国第３位。近年、茶の栽培面積の減少に伴い、荒茶生産量も減少している。
○　主な産地は岐阜県の美濃地域の東部と西部、愛知県の県南東部の三河地域、三重県の北勢地域と中南勢地域となっている。
○　茶期別（茶の摘採時期別）の荒茶生産量は、岐阜県及び愛知県では、最も品質が良い一番茶の占める割合が高い。一方、三重県はドリンク等に使用される二番茶等のその他の割合が高くなっている。

○管内各県等の茶栽培面積及び全国シェア

順位	府県名	R２ 面積 (ha)	シェア (%)
1	静 岡 県	15,200	38.9
2	鹿児島県	8,360	21.4
3	三 重 県	2,710	6.9
4	京 都 府	1,560	4.0
5	福 岡 県	1,540	3.9
6	宮 崎 県	1,330	3.4
7	熊 本 県	1,170	3.0
8	埼 玉 県	825	2.1
10	長 崎 県	725	1.9
9	佐 賀 県	705	1.8
11	奈 良 県	654	1.7
12	岐 阜 県	592	1.5
13	滋 賀 県	545	1.4
14	愛 知 県	500	1.3
15	大 分 県	471	1.2
全国		39,100	100.0

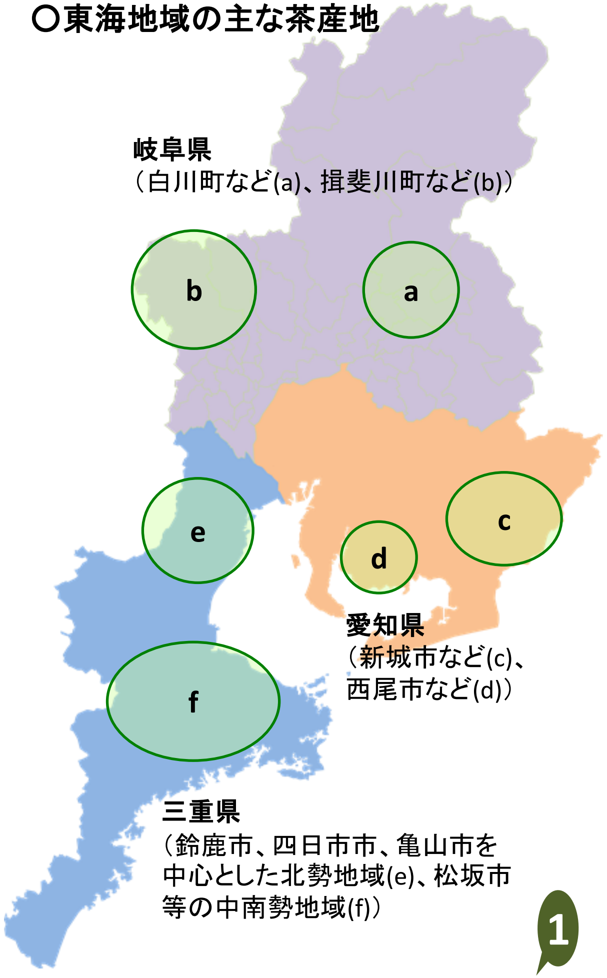
資料：農林水産省「作物統計」
次回の県別面積調査はR8予定

○荒茶生産量及び一番茶の割合（26年産及び2年産）



※グラフ上段の数値は、荒茶生産量の計
資料：農林水産省「作物統計」、次回の県別調査はR8予定

○東海地域の主な茶産地



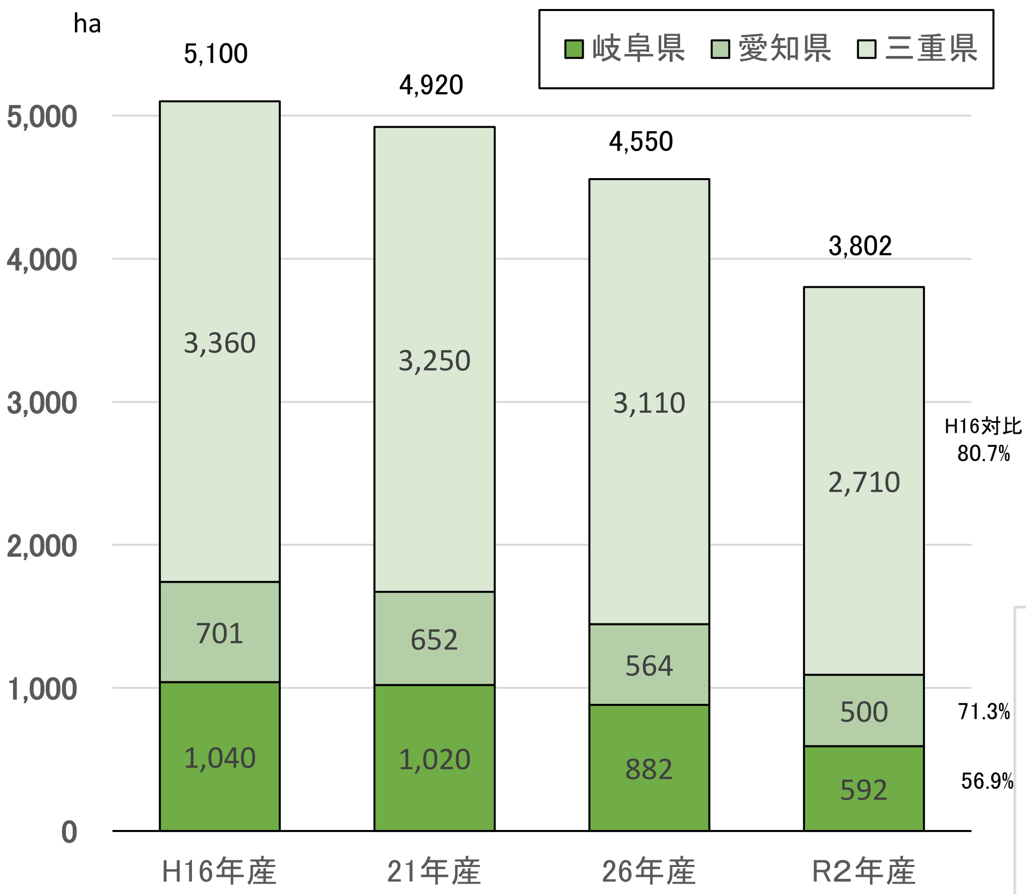
2　栽培面積の推移と品種別栽培面積

○　茶の栽培面積は近年減少しており、生産量の多い三重県に比べ、岐阜県と愛知県の減少割合が大きくなっている。

○　品種別には岐阜県と三重県は「やぶきた」の割合が全国を上回る８割以上となっている。抹茶の生産量が多い愛知県は抹茶の原料となる「てん茶」に向いている「さみどり」や「おくみどり」の割合が多くなっている。

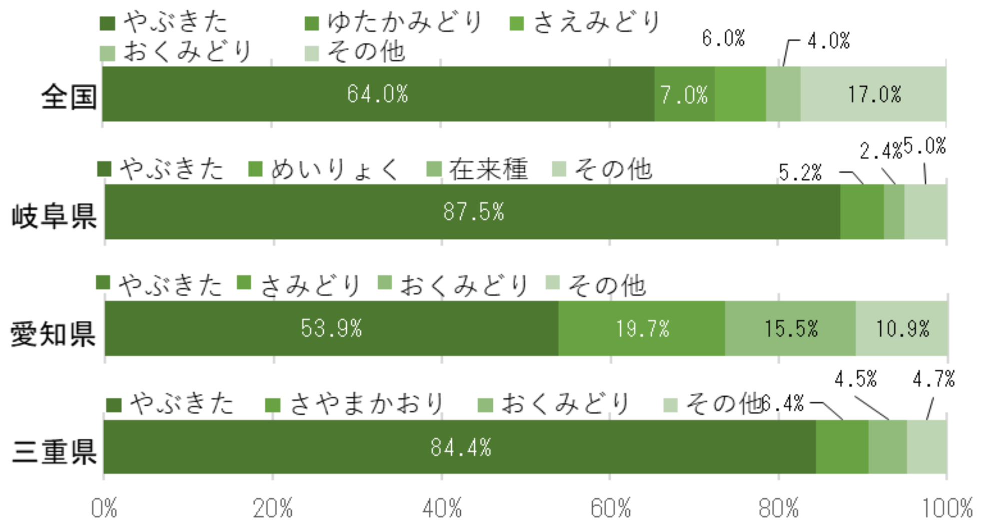
○　全国と同様の傾向であるが、茶園の老園化が進んでおり、収量・品質維持のためには、計画的な改植が重要となる。

○東海地域における茶栽培面積の推移



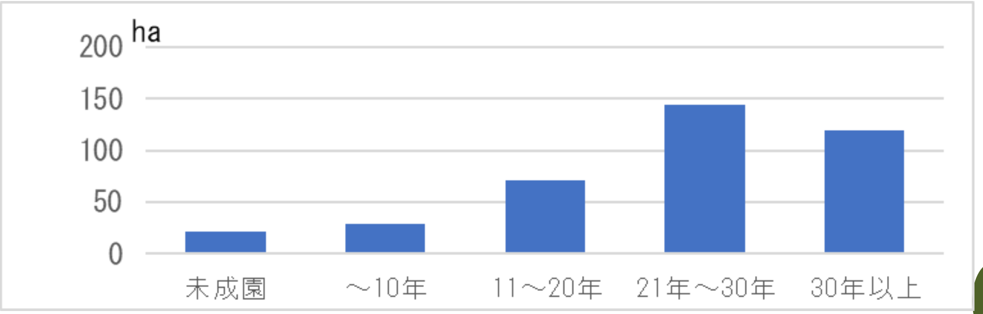
※グラフ上段の数値は、東海3県の茶栽培面積の計
資料：農林水産省「作物統計」　次回の県別面積調査はR8予定

○品種別茶園面積の割合（R6産全国、愛知岐阜、R5産三重）



資料：茶の生産流通状況等調査（果樹・茶グループ）

○樹齢別の茶園面積（愛知県（令和6年産））

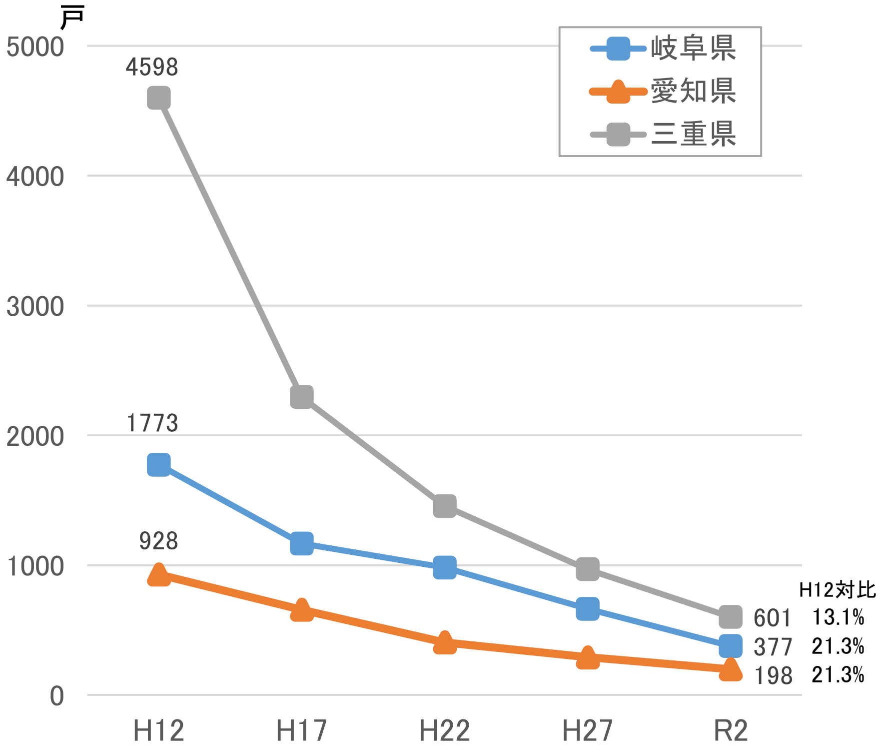


資料：茶の生産流通状況等調査（果樹・茶グループ）

3　販売農家数

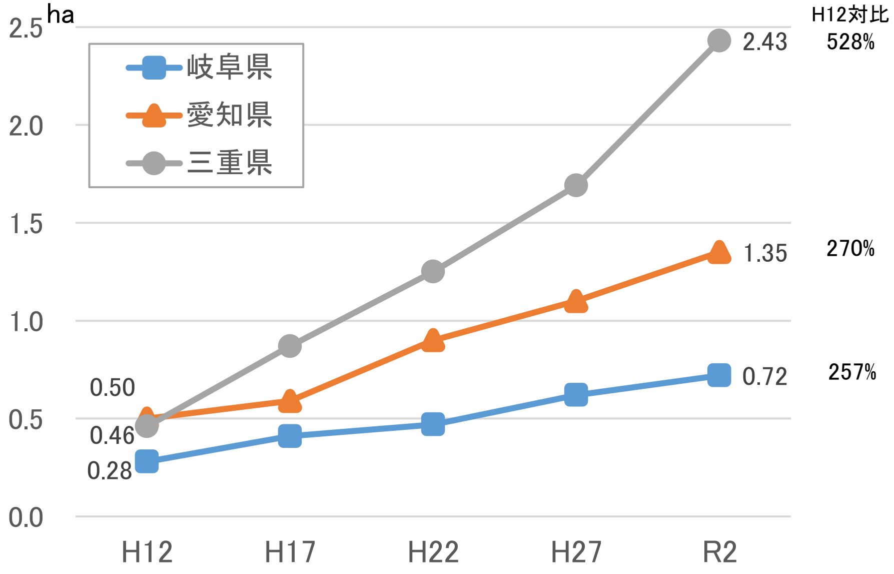
○　販売農家数は各県とも減少しており、特に三重県ではH12年から15年間で約8割減少している。一方、販売農家1戸あたりの栽培面積は拡大が進んでおり、特に三重県では規模拡大が顕著。

○販売農家数の推移



資料：農林業センサス
※H27からは農業経営体数

○販売農家1戸あたりの栽培面積の推移



（参考）主産県における販売農家1戸あたりの栽培面積（ha）

	静岡	鹿児島	京都	福岡	宮崎	熊本
R2	1.5	5.4	2.0	1.5	2.9	1.4

資料：農林業センサス
※H27から1農業経営体数あたりの栽培面積